

	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診勧奨、そしてがん検診や精密検査の受診勧奨は強化を図っており、今後も引き続き勧奨を強化していく。なお、令和7年度よりかかりつけ医療機関で特定健診を受ける際、大腸がん検診に加えて肺がん検診も同時受診できるようになった。 ・全妊産婦を対象として妊娠中と出産後に面接を実施しているが、令和6年度より面接拠点を拡大し、北区役所の保健サービス係窓口及び各健康支援センターでも実施している。はぴママ学級及び赤ちゃん学級は、出産前から妊娠、出産、産褥期、育児について学ぶ講座。「パパのための半日コース」として実施していた講座を、令和6年度より「赤ちゃん学級」にリニューアルし、さらに令和7年度からは、はぴママ学級を赤ちゃん学級に統合して実施している。 ・いのち支えるセーフティネットワークの整備として、自殺予防対策を強化するため、令和6年度に北区いのち支えるセーフティネット協議会を立ち上げ、関係機関とさらなる連携強化を図っている。
	質問なし
報告事項②（仮称）北区健康づくり推進条例の制定検討について	
事務局	<p>【説明内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代を踏まえ、さらに健康施策の推進を図るために条例の制定を検討する。そのため、北区の医療関係者、学識経験者等による検討会を設置した。 ・検討スケジュールは、各方面の意見をもとに約1年後に骨子を取りまとめ、パブリックコメントや議会報告などを行う予定。また、アンケートの実施等で全世代から幅広く意見聴取をしていく予定。
	質問なし
報告事項③北区いのち支えるセーフティネット協議会 協議内容について	
事務局	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月12日に開催した北区いのち支えるセーフティネット協議会では、ゲートキーパー研修の実施など、つなぐシート導入に向けた自殺予防対策における取り組みについて説明した。 ・ゲートキーパー養成研修は、区民向けも職員向けも、ゲートキーパーの役割を知るとともに気づくことができるための研修。実際にゲートキーパーとしての役割の1つである、つなぐことができるような実践的な対応ができる研修。応用編として、命を守るための人材育成としての研修を体系的に行った。 ・区民向け研修の目的は、ゲートキーパーを知ってもらうこと。令和7年8月8日、北とぴあの14階カナリアホールにて、「ゲートキーパーってなあに？いきることを悩んでいる人に気づくには」を開催する。講師は、セーフティネット協議会委員でもあるNPO法人メンタルケア協議会の西村由紀氏。 ・ゲートキーパー養成研修基礎編、応用編は、実際にゲートキーパーとして活躍できる人材の育成として実施。基礎編は年2回実施し、それぞれ研修の6ヶ月後に、体験事例の共有とスキルアップを目的とした応用編を開催する。第1回目は8月22日（金）夜7時から北とぴあの7階701会議室で開催する。受講者へのフォローアップとして、メール、SNS、電話などによる、受講者専門の相談窓口を開設する。受講終了後6ヶ月間利用でき、ゲートキーパー自身が孤立せずに地域のセーフティネットになる確実な人材育成を目指して

	<p>いく。今年度よりNPO法人LightRing.に委託している。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員向けの研修は、管理職を対象に、セーフティネット協議会会長の竹島先生を講師として開催した。現在、新任研修、係長昇任者研修を職員研修として行っているところに加え、実践編として、主任程度で対人、相談業務の経験者や現任者を対象に、ロールプレイを中心とした研修を2回計画している。庁内全職員がいずれかの職層にて「ゲートキーパー研修」を受講することを当面の目標としている。 つなぐシートの導入に向けて、昨年度庁内でのワーキンググループを2回開催した。シート導入のためには、職員の技術や知識に加え、まずゲートキーパーについて身につけることが必要であるため、職員へのゲートキーパー研修の充実を目標にした。研修では、職員自身が気づいてつなぐための方法を検討してもらう。今後、あったらいいことや、うまくいった対応を把握し、職員が必要とするツールを形にすることを目的にした。今年度一部の部署でモデル実施し、来年度全庁試行を挟み、本格的な実施を目指す。 令和8年1月15日、ペガサスホールで、2回目の北区いのち支えるセーフティネット協議会の開催を予定している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ゲートキーパー研修について、23区内での先行事例や動きがあったらお示しいただきたい。 初級基礎、そのあとの継続的な取り組みも大事だと思う。どんどん広げながら、具体的な動きができると素晴らしい。その辺りのプランや考え方をご教示いただきたい。 孤独孤立対策。区内の傾向、人数までお示しいただきたい。特に、未成年の自殺は社会問題になってるので、区内における状況をお示しいただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 先行事例はたくさんあるので、後日まとめてお示ししたい。 継続的な取り組みについては、やりっ放しではなくて、いずれセーフティネットを築いていきたいという思いで取り組んでいく。 北区の自殺者は、年間60人前後で推移している。傾向としては高齢の女性、中高年の男性が多い。また、未成年の自殺は近年とても取り沙汰されており、昨年度は過去最高になってしまったこともあり、北区としても教育部門などと連携をしながら対策を検討していく。
委員	大変すばらしい取り組みだと思うので、区民の方々含めて制度を使っていたいただきたい。
報告事項④「北区健康づくり活動支援助成制度」及び「北区健康づくり人材バンク」について	
事務局	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> 北区健康づくり活動支援助成制度は、ソーシャルキャピタルを生かした健康づくりの推進として、仲間と取り組む健康づくりを補助する新規事業である。また、健康づくり人材バンクとして、健康づくりに資する有資格を登録・公開し、指導員として紹介する制度も開始する。 健康づくり活動支援助成制度の申請受付期間は8月1日から20日まで。申請後の助言審査において、保健師等の専門職と各団体とで目標を設定していく。申請後は概ね1週間程度で決定通知があり、その後自主的な取り組みを行い、上限5万円が交付される。1年単位でも利用可能だが、更新を希望する場合は3年間助成対象となる。 健康づくり人材バンクは、区のホームページに掲載したばかり。申請受付期間は随時で、申請書提出またはロゴフォーム等で申請すると、登録カードが送られる。また、職種、

	登録番号、どんな健康づくりの講座ができるか、などの掲載を了承された個人情報については、登録者数が増えた段階で区のホームページに掲載する。対象となる職種は今後追加を検討している。北区の健康づくりの取り組み、健康の循環がより積極的に図れるよう、事業の見直しは随時行う。
	質問なし
報告事項⑤後期高齢者糖尿病重症化予防事業の拡充について	
事務局	<p>【説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿重症化予防事業は、国保は平成31年度、後期高齢者は令和6年度から実施している。 ・歯周病と糖尿病の関連性がとても深く、糖尿病の重篤化と共に認知症のリスクも大きくなると言われている。歯周病治療によって糖尿病の改善が見られることもあり、後期高齢者に対し、歯科の受診勧奨を今年度から行うこととした。内容としては、口腔フレイルや糖尿病疑いのある130名に歯科の受診勧奨通知を送付する。具体的には、後期高齢者の健康診断の問診で、「固いものが食べにくい」「水を飲むとむせる」の項目にいずれも該当し、過去1年間に歯科の診療がなく、糖尿病などの疑いがある方を対象に通知をする。なお、この事業は、国が進めている高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の一環として実施している。
委員	明治安田でも区民向けに9月11日に同様の講演会がある。
事務局	講演会等も含めて随時周知できたらと思っている。
副会長	昨年度の保健指導は少ないが、今回の事業と、今まで通りの業務をやるということか。
事務局	保健指導は従来通りやっていて、それにプラスして歯科の勧奨通知を出している。
副会長	130名のうち何名ぐらい受診予定か、目標はどれくらいか。
事務局	目標等は国の通知を検証しながら説明したい。
副会長	できれば事前に見たほうがいい。また、これまで通りやっている保健事業の予定人数は同じか。
事務局	保健指導管理等の受診勧奨については同じ件数で考えております。
報告事項⑥国民健康保険特定保健指導の拡充について	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・国保の特定保健指導は、約6ヶ月間の指導期間において、利用開始しても最終評価まで継続しない方がいるため、実施率がかなり低く、課題となっている。継続への工夫として、本人がコースを選択し、数値を確認しながら、楽しみながら取り組めるプログラムを検討してきた。また、6年度に国が改定した保健指導プログラムは、成果、やったことを重視する内容となっており、より積極的な実施内容として活用していきたい。保健指導は、これまでオンラインの基本コースのみであったが、本人の希望によりコースが選べる方法に変更した。 ・具体的なコース内容を紹介する。従来の保健指導である基本コースは、面談に加え、アプリを利用して食事や測定値を自己管理できる。 リブレコースは、リブレというCGMセンサーを対象者の腕に2週間ほど装着し、スマートフォンにセンサーをかざすと血糖値がアプリに表示される。 塩分チェックコースでは、採尿キットを使用して塩分摂取量を測定し、結果はアプリで管理ができる。 Fitbit コースは、Fitbit というウォッチを装着して、心拍数をもとにした運動や睡眠な

	<p>どのデータを自動で記録する。データは受託事業者に連携されるため、食事のデータなど一括管理できる。なお、Fitbit は返還不要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース拡充により、コース終了後も自発的で継続した生活習慣の改善、ひいては健康寿命の延伸などにつなげたいと考えている。
会長	リピーターになることは問題ないか。
事務局	健診の保健指導の対象であれば問題ない。
副会長	令和7年度の目標値設定はまだか。
事務局	13%を予定しているが、今年度の9月ぐらいに出る6年度の実績を見て検討する。
その他	
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・食育に関して、各学校に食育リーダーを配置するということだが、この食育リーダーは栄養士とは違うのか。どういう資格を持ってる方で、各学校というが、大体何人に対して何人とか決まっているのか。具体的にどのようなことをするのか。 ・高齢の健康について、聞こえの悪さが認知症に繋がることは以前から言われている。補聴器購入費用の助成をより広げていく計画はあるのか。また、北区は耳の健診をずっとやっているが、23区でもなかなかないと聞いた。健診データはどのように活用していくのか。
会長	報告事項が終わったため、今のご質問はその他ということで受ける。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・食育リーダーについては所管課に確認して後日回答する。 ・ヒアリングフレイルに関しては、昨年度各地区で講演会を開催し、今年度も2回開催予定。昨年度は医師会の協力でいくつかの制度を周知した。今年度は要望が大きかった点を取り入れて実施する予定。 ・補聴器の購入費用の助成は昨年度から実施している。必ず健診をして、補聴器を使ったほうがより効果があることを確認した上で助成している。今年度も非課税者を対象に実施する。 ・耳の健診の継続等については、今後検討する。
委員	年代別の平均自殺死亡率が、80歳以上では21.7と多い。原因はわかっているのか。
事務局	全員の自殺の原因は示されていないが、もともと母数が少ないので、1人2人の変動でも大きく反映されてしまう。
事務局	特定保健指導の実施目標率を13%のままとしたが、訂正する。第4期特定保健指導計画で6年度から11年度までの目標を立てており、6年度は特定保健指導の目標率の13%だが、7年度は13.5%、8年度は14%、9年度は14.5%、10年度が15.0%で、11年度、最終年度は15.5%を超えていきたい、という計画を立てている。それに基づき事業内容を充実した。
会長	目標率が30%、50%はかなり高い数値だが、これを下げた理由は。
事務局	第3期までは、国の目標値が60%以上に合わせたような数字を立てていたが、第4期改定の際に北区の実態に合わせて変更した。
委員	<p>伴走型相談支援は、妊娠から出産、子育てまで一貫した相談支援を各専門職が行う事業。しかし、ひよこ面接の通知が出生届と同時ぐらいで送られていて、赤ちゃん訪問と実施時期も相談事項もかぶってしまい非常にもったいない。出産、子育て、それぞれの時期に特化して出てくる相談事、心配事に対して専門職が相談にのるというのが切れ目ない支援だと思っているので、通知時期を検討していただけないか。ひよこ面接では北区からのプレ</p>

	<p>ゼントがある一方、国からの支援金は赤ちゃん訪問を受けなければもらえないが、そのあたりの説明も不十分で、親にとっては非常に不利益。出生直後に赤ちゃんを連れての外出はあまり奨励していないため、生後2か月以降をひよこ面接の対象時期として設定していただけないか。</p>
理事者	<p>子ども家庭支援センターでひよこ面接を所管している。生後半年までに来ていただきたい、などの観点から対象期間を設けている。新生児訪問とかぶるのは決していいことではないので検討する。</p>
●閉会	
以上	